

会員のひろば

■ 満天の星、刻々と変わる海の色に魅せられたピースボートの旅 光台7丁目 齋藤恵彦

中学1年の時に船で行く地球一周の本を読んで以来、船旅に対する夢は私の心にずっと消えることなく住み続けていました。その夢が現実のものになった時には71歳になっていました。去年の11月22日待ちに待った感動の出航でした。95歳代5人を含む平均年齢67歳の参加者です。



印象に残っている寄港地は、ケープタウン、ウシュアエア、イースター島、タヒチ、ラバウルです。世界で一番貧しい国と言われているマダガスカルでは、子供たちが明るく、サッカーボールがなくてもタオルを丸めたボールで楽しく遊んでいる姿に感動しました。日本の子供たちの笑顔が少ない現状に、何が幸せなのかを考えさせられました。

狭い船内で多くの人と知り合い、人間の弱さと楽しみ方を学びました。私は詩吟を習いはまってしまっています。どんな人とも話をして相手の価値観を認め、自分の意見もはっきり言うことによるコミュニケーションのスキルアップに挑戦し、楽しい船旅が出来たことに感謝しています。

事業委員会だより

■ 平成25年度堆肥化事業報告 担当理事 音羽 豊

平成25年度の堆肥化事業は無事故のうちに「ごみ減量化」「CO2削減」「堆肥販売」とも当初の目標を達成することが出来、同時に収支面でも若干のプラスとなりました。

これは堆肥班会員の方々の努力に加え、剪定、草刈班等からの材料供給や事務局での堆肥販売等のご協力によるものと感謝しています。

また、会員による刈草堆肥の試験使用、せいか祭りで堆肥の無料配布、他所センターでの堆肥化事業の見学は今後の事業を進める上での重要な活動となりました。

今年度は目標を以下に設定し、同時に収支面でも更に改善を進めます。

- ① ごみ減量化 155トン
- ② CO2削減 250トン
- ③ 堆肥販売量 13.5トン

また、刈草堆肥の利用のため堆肥場内の小規模試験農園の検討およびカブト虫の飼育販売の検討も計画しています。会員の皆様の堆肥化事業への参加をお待ちしています。



剪定枝粉碎作業・シルバー堆肥場



せいか祭り2013堆肥無料配布・けいはんなプラザ